エコアクション21

2022年　環境経営レポート

（対象期間　：　2022年9月～2023年8月）

発行日　：　2023年12月27日
改定日　：　2024年1月17日

株式会社　新栄

目　次

1.　組織の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2.　実施体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

3.　環境経営方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

4.　環境経営目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

5.　環境経営目標の実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・5

6.　環境経営計画、取組結果とその評価、次年度の取組内容　・6

7.　実績結果の評価・考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

8.　環境関連法規への違反、訴訟の有無　・・・・・・・・・・・・・8

9.　代表者による全体評価と見直し結果　・・・・・・・・・・・・・9

1. 組織の概要

1 組織

名称 :　　株式会社　新栄

設立 :　　1697年 （昭和42年） 6月1日

代表者:　　代表取締役　田中誠也

所在地:　　岐阜県不破郡垂井町綾戸381

資本金:　　7000万円

従業員:　　20人

売上高:　　239百万円(2022年)

事業活動:　FA機器電機回路・加工及び建設業、一般廃棄物収集運搬業

対象範囲:　全組織 ・ 全活動

事業年度:　9月～8月

2 事業の規模

	2020年度	2021年度	2022年度
売上高 （百万円）	228	186	239
(内建設業　百万円)	104	25	59
工事件数 （件）	3	4	6
従業員数 （人）	30	20	20
延床面積	550	550	550
事務所 （㎡）	50	50	50
作業場 （㎡）	250	250	250
倉庫 （㎡）	250	250	250
駐車場 （㎡）	588	588	588

一般廃棄物収集運搬業

許可番号	許可期限	積替え保管
垂井町指令第129号	令和4年4月1日～令和6年3月31日	なし
取り扱う一般廃棄物の種類	R4年度処理実績	運搬車両
可燃物・不燃物・特定家庭用機器廃棄物	223.29t	パッカー車1台

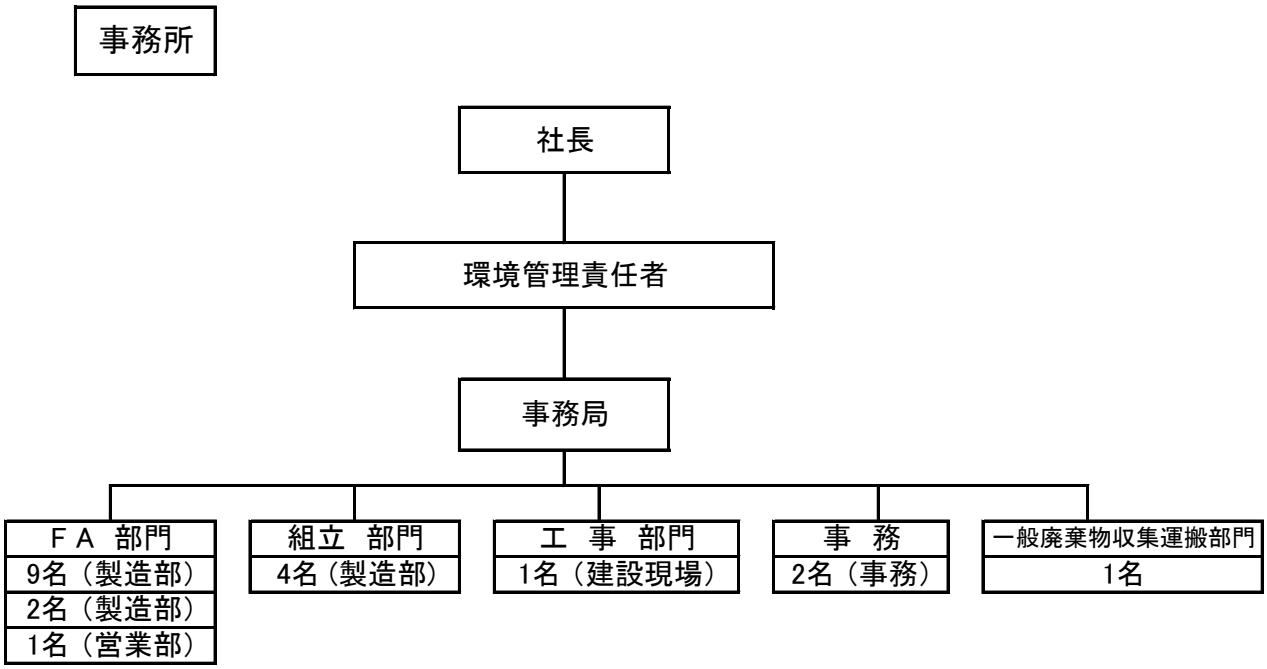
3 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者氏名及び担当連絡先　柳瀬

連絡先 : TEL　0584-71-7113
FAX　0584-22-6789

次回発行予定 : 2024年　12月

2. 実施体制



役割 ・ 責任 ・ 権限表

担当	役割・責任・権限
代表者	・ 環境経営方針の策案 ・ 環境管理責任者の任命 ・ 資源 （人員・設備・費用等） の準備 ・ 代表者による全体のっ評価と見直し
環境管理責任者	・ 環境経営システムを構築・運用・維持し、その状況を代表者に報告 ・ 外部からの苦情等の受付 ・ 環境活動レポートの作成 ・ 部門の環境目標及び環境活動計画の運用管理
事務局	・ 環境関連文書及び記録の作成・管理等 ・ 環境活動計画の実施状況確認
部門長	・ 各部門に関連する問題点の是正と予防処置の実施
全従業員	・ 環境経営方針の理解と環境への取組みの重要性の理解 ・ 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 環境経営方針

環境経営方針

□ 環境理念

当社は、地球環境保全の為の社会的使命を自覚し、本業である製造業や建設業及び一般廃棄物収集運搬業を通じて、地球温暖化問題に取り組み企業として地域の環境活動に自主的・積極的に取り組み環境にやさしい企業を目指します。

□ 環境保全への行動指針

(1) 環境理念に基づき、次の項目について環境経営目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

1. 二酸化炭素排出量の削減
2. 廃棄物排出量の削減
3. 水使用量の削減
4. 化学物質の適正管理
5. 不適合品の削減
6. 地域貢献活動

これらの環境保全活動の取り組みについて、環境レポートとして公表します。

(2) 前(1)項を推進するにあたり、当社に適用される環境関連法規、規則、協定その他の要求事項を遵守します。

本方針は、全ての社員に周知徹底し、環境に対する意識の向上に努めます。

制定日 : 2015年7月30日

一次改定日 : 2019年9月1日

二次改定日 : 2022年10月1日

4. 環境経営目標

項	環境経営目標		単位	基準年度	年度目標		
				2020 年	2022年	2023年	2024年
1	二酸化炭素排出量の削減		kg-CO_2	7,942.38	1.5%削減 7,823.24	2.0%削減 7,783.53	2.5%削減 7,743.82
	電気使用量の削減		kWh	604.00	1.5%削減 594.94	2.0%削減 591.92	2.5%削減 588.9
	軽油使用量の削減		L	1,185.50	1.5%削減 1,167.71	2.0%削減 1,161.79	2.5%削減 1,155.86
	ガソリン使用量の削減		L	721.00	1.0%削減 713.79	1.5%削減 710.18	2.5%削減 702.98
	灯油使用量の削減		L	1,165.00	1.5%削減 1,147.52	2.0%削減 1,141.70	2.5%削減 1,135.88
2	廃棄物の削減	一般廃棄物	kg	234.10	1.5%削減 230.58	2.0%削減 229.41	2.5%削減 228.25
		産業廃棄物	kg	65,600	1.5%削減 64,616	2.0%削減 64,288	2.5%削減 63,960
3	水使用量の削減		m^3	30.00	1.5%削減 29.55	2.0%削減 29.40	2.5%削減 29.25
4	化学物質の適正管理		定期的 確認	保管場所 の指定	適正管理	適正管理	適正管理
5	製造工程の不適合の削減		不良件数	25	4.0%削減 24	8.0%削減 23	16%削減 22
6	地域貢献活動		-	清掃活動	清掃活動	清掃活動	清掃活動

・　購入電力のCO_2係数は、2020年度中部電力の調整後排出係数（0.379kg-CO_2/kWh）を使用した。

5. 環境経営目標の実績

目標項目		単位	基準年度（2020 年）	目標（2022 年）	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2	7,942	△1.5% 7,823	11,669	67%	×
	電気使用量の削減	kWh	604.00	△1.5% 594.94	515.2	115%	○
	軽油使用量の削減	L	1,185.50	△1.5% 1,167.71	2,603.10	45%	×
	ガソリン使用量の削減	L	721.00	△1.0% 713.79	829.15	86%	×
	灯油使用量の削減	L	1,165.00	△1.5% 1,147.52	1,062.00	108%	○
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	kg	234.10	△1.5% 230.58	232.35	99%	×
	産業廃棄物の削減	kg	65,600	64,616	67,859	95%	×
節水	水使用量の削減	m^3	30.00	△1.5% 29.55	31.00	95%	×
化学物質	化学物質の適正管理	－	定期的確認	適正管理	適正管理		○
環境配慮の製品	製造工程の不適合の削減	不良件数	25	24	26	92%	×
地域貢献活動	地域貢献活動		－	清掃活動	清掃活動		○

注記 ： 購入電力のCO_2係数は、2020年度中部電力の調整後排出係数（0.379kg-CO_2/kWh）を使用した。

＊1　建設現場（軽油・ｶﾞｿﾘﾝ）の使用量は、委託しているので把握していません。
＊2　産業廃棄物の内、鉄くず、ﾊｰﾈｽに関してのみ100%ﾘｻｲｸﾙを実施し尚且つ実績の中に含んでいます。
　　一般廃棄物の内、段ﾎﾞｰﾙは100%ﾘｻｲｸﾙを実施しており実績には含んでおりません。
＊3　給湯用のLPGは使用量が少ないので削減目標から除く。
＊4　達成率は「目標÷実績」で算出しています。
＊5　評価基準は下記のように表しています。
　　（達成率＝100%以上→○ ・ 達成率＝100%未満 → ×）

6. 環境経営計画、取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境目標項目	取組内容	取組結果とその評価	次年度取組内容
電力使用量の削減	冷房管理の徹底（夏場28℃）	管理表を作成し管理した	継続して行う
	ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰのﾌｨﾙﾀｰを2回/年掃除する	10月と4月に清掃を行った	継続して行う
	空調機のﾌｨﾙﾀｰを2回/年掃除する	10月と4月に清掃を行った	継続して行う
	不要な照明の消灯（始業前、休憩時、終業後、ﾄｲﾚ等）	不要な照明の消灯を徹底した	継続して行う
	OA機器は省電力設定にする	ｺﾋﾟｰ機省電力機など使用している	継続して行う
	ｺﾋﾟｰ機は省電力ﾀｲﾌﾟ使用	使用後節電を押している	継続して行う
	設備のｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ時間短縮、不使用時の電源OFF	徹底出来た	継続して行う
	ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰのｴｱｰ漏れの点検	ｴｱｰ漏れの点検を行い電力削減が出来た	継続して行う
軽油の削減	ｴｺﾄﾞﾗｲﾌﾞの実施	急発進・急加速をしなかった	継続して行う
	効率的なﾙｰﾄでの運行	配達先が増えたが、その中でも、出来るだけ効率を考え運行した	継続して行う
ｶﾞｿﾘﾝの削減	ｴｺﾄﾞﾗｲﾌﾞの実施	急発進・急加速をしない様心掛けた	継続して行う
灯油の削減	暖房管理の徹底（冬場　20℃）	定期的に室内の温度を管理し、暖房の使い過ぎに気を付けた	継続して行う
廃棄物の削減　一般廃棄物	分別を徹底する	分別方法とﾃﾞｰﾀ取りの方法の検討を行う	継続して行う
	ｺﾋﾟｰ用紙の削減（両面ｺﾋﾟｰ・裏紙活用）	両面印刷・裏紙を使用し削減出来た	継続して行う
廃棄物の削減　産業廃棄物	分別を徹底する	保管基準表示板を作成し表示した 分別は徹底出来た	継続して行う
水使用量の削減	節水表示の推進	4ヶ所に表示・設置した	継続して行う
	水を出しっぱなしにしない	管理出来た	継続して行う
	水道管の漏水を定期的に確認（1回/年）	確認をした	継続して行う
化学物質の適正管理	化学物質の保管場所の管理	保管場所の指定を行った	継続して行う
	SDSによる取扱いと注意確認	SDS注意事項の講習を行った	継続して行う
製造工程の不適合品の削減	不良ﾃﾞｰﾀの収集と原因追究・対策（所内不良報告）	類似した不良に対し認識の甘さからか成果が見られないので、再教育をし終始徹底させている	継続して行う
地域貢献活動	清掃活動	会社周辺清掃活動	継続して行う

7. 実績結果の評価・考察

＜二酸化炭素排出量の削減＞

過去数年間はコロナの影響が大きく、比較的目標達成出来ていたが、
今年度はコロナの影響も少なくなり、色々な面で目標が達成できなかった部分が
大きかった様に思われました。
軽油、ガソリンの使用量に関しては、営業に行ったり、定期便での配送先の追加もあり、
移動距離が増えた分、使用量としては増加してしまったので目標設定の見直しが
必要ではないかと考えられる。
但し、急発進、急加速等しない様従来通り心掛けて運転している。
目標達成出来ていない部分がある中で、電気の使用量と灯油の使用量は
個々が意識していた結果だと思われる。

＜廃棄物の削減＞

前年同様両面印刷等していたが、稼働率の上昇と並行し、必然的に
廃棄物が増えてしまったのが原因ではないかと思われる。
とはいえ、このままではいけないので、より一層努力が必要。
鉄クズ・ﾊｰﾈｽの産業廃棄物については今までと同様100%
リサイクルを実施しています。

＜水使用量の削減＞

今回も前回同様、目標達成には至らなかった。
漏水もなく、トイレのタンクにペットボトルを入れ調整をし使用量削減を継続して行く。
ただ、水の使用量として目標設定値には届かなかったが、
稼働率から考えると良い方向に向かっているのではないかと思われる。

＜化学物質の適正管理＞

化学物質の使用量について、毎年計画的に使用されており保管場所の管理と在庫を徹底し、
今後も継続して適正管理をしていく。

＜製造工程の不適合品の削減＞

類似した不良が出ているので、より詳しい原因究明・解析をしつつ、再教育をし
理解を深めてもらうとともに、より一層努力をし、不適合品の削減が出来るようにしていく。

＜社会貢献活動＞

会社周辺の清掃活動は実施出来ています。

8. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

1)　主な環境関連法規制と順守評価結果

法規制等の名称	該当する要求事項（対応すべき事項）	順守評価（2022/8/31）	
		証拠	判定
廃棄物処理法	・ 委託基準 産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	契約書・許可書	○
	・ 保管基準 掲示版 ： 60cmX60cm以上、飛散・浸透防止	現場確認	○
	・ ﾏﾆﾌｪｽﾄ交付 B2・D票90日、E票180日以内に送付されない場合は30日以内の知事への報告 A、B2、D、E票の保管（5年間）	ﾏﾆﾌｪｽﾄ	○
	・ 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出		
	・ 運搬時の飛散流出防止	－	○
岐阜県廃棄物の適正処理に関する条例	・ 事業系廃棄物の適正処理	廃棄物の適正処理	○
PRTR法	・ 化学物質の適正管理 （はんだ）		○
岐阜県公害防止条	・ 走行ｸﾚｰﾝの届出、規制基準値の順守	苦情なし	○
騒音規制法	・ 規制基準値の順守	苦情なし	○
振動規制法	・ 規制基準値の順守	苦情なし	○
建築基準法	・ 建築基準の順守	設計図等	○
建設ﾘｻｲｸﾙ法	・ 廃棄物の再資源化、ﾘｻｲｸﾙ等環境配慮	完成図書	○
ｵﾌﾛｰﾄﾞ法	・ 重機の管理徹底	定期点検	○
ﾌﾛﾝ排出抑制法	・ 廃棄時は確実に専門業者に引き渡す ・ ｴｱｺﾝの簡易点検	点検記録	○
消防法	・ 防火管理者の選出	届出書	○
	・ 消防設備等の設置	届出書	○

2)　違反、訴訟等
自社の事業活動に関する法令違反はありません。
関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間なく訴訟もありません。

9. 代表者による全体評価と見直し結果

① 実施日 : 2023年12月27日

② 見直し・変更の必要性

環境経営方針	なし
環境経営目標	なし
環境活動計画	なし
実施体制	なし

③ 代表者による総括 : 田中誠也

本格的に制限が解除されていくなか、業務が活発になった結果目標値を超えてしまっていた。
しかし、軽油に関しては不適合品の対応により何度も納品先に出向く事になり
極端に増えた事が要因と考えられる。
それを減らす為にもより一層「従業員一人一人が不適合品を出さないようにするには」を心掛け
製作にあたる必要があると考えている。
まだ、思うように進めていないように感じられるので、より一層限りある資源を上手く活用・再資源化に
取り組み地域環境に配慮する。